

2 自社の企業概要と現状

※本ページ以降、3ページを超える部分や欄外記載、別紙は審査対象としません。

○ 企業概要※主要製品やサービス、主な顧客等について記載

当店は、〇〇線〇〇駅近くの家族経営の小規模洋食店です。昭和〇〇年に開店して〇年続く老舗洋食店です。近隣には、コンビニートや商工業団地が多く、そこで働く方々が主な顧客層です。昼は、洋定食のランチメニュー中心に、夜は、仕事帰りの方々に洋酒類や、おつまみ的な料理を提供している洋居酒屋になります。

○ 現状※自社の強み・弱みを記載

昼も夜も提供メニューが豊富なことが強みで、顧客の要望に対応しており、常連客の確保にも貢献しており、当店の強みである反面、調理作業の手間が増え、限られた従業員では、十分な顧客接遇に手が回らない現状です。限られた従業員のみでは、従来の接客を続けることは困難になってきております。

3 補助事業の区分（該当するものに☑してください、複数選択可）

☒業種特有業務効率化事業、☐経理業務効率化事業、☒営業業務効率化事業、
☐労務管理効率化事業、☐その他業務効率化事業

4 補助事業の内容

○ 補助事業の目的・取組内容 ※経費ごとの必要性も記載

新しく料理のQRコードオーダーシステムを導入し、各席にQRコードを配布し、顧客がそのQRコードを自身のスマホで読み取って注文ができ、即直接厨房に注文内容が判ることから、店員が注文を受ける作業を極力省けることになる。

導入経費：QRオーダーシステム 今回の計画の根幹となるシステム

レシートプリンター 顧客がスマホから注文した内容を、厨房で出力するために使用

○ 現在のプロセス

- ① 来店客を店員が席に案内
- ② 店員が注文をとる。
- ③ 店員が注文内容を厨房に伝える
- ④ 店員が客席まで料理を運び提供する

○ デジタル化後のプロセス

- ① 同左
- ② 顧客自らスマホでオーダー
- ③ 自動的に注文内容が厨房に伝わる
- ④ 同左

○ 補助事業の効果 ※人手不足への効果も記載

このシステムを導入することで、店員が注文を取る手間、時間が削減し、配膳、片付けに注力できる。結果、これまでランチタイムのキャパシティが〇〇組程度だったのを、〇〇組程度まで向上させることができ、同じ従業員数でも、客数の増加と売り上げの向上が期待できる。

○ 実施スケジュール

※発注時期、納品時期、支払時期、稼働開始時期について記載

予定時期	実施内容
7年 8月	交付決定通知書受領
7年 8月	交付決定受領後、QRオーダーシステム発注
7年 9月	QRオーダーシステム納品、試行、代金支払い
7年10月	QRオーダーシステム運用開始

留意事項※事業開始までに取得する必要がある免許や許可などがあれば記載

なし